

17:31 <NQN>◇香港株大引け 4日ぶり反発、朝安後上げ 値ごろ感や個別物色で
OAP9610

【NQN香港＝瀬崎真知子】26日の香港株式相場は4営業日ぶりに反発した。ハンセン指数の終値は前日比139.39ポイント（0.71%）高の1万9757.27だった。朝方は前日の米株安を背景に下げて始まったが、指数は前日までに3日続落しており、値ごろ感からの買いが次第に強まった。好材料が意識された銘柄の個別物色も活発で、相場を押し上げた。

指数への寄与度の大きい中国ネットサービスの騰訊控股（テンセント）が2.9%上昇。朝方は大株主によるテンセント株の追加売却が伝わり下げたが、ほどなく上げに転じた。同社が海外のゲーム開発会社への投資を加速すると報じられたことも追い風となった。その他の主力ネット株の一角も堅調だった。

電気自動車（EV）の比亞迪（BYD）はじめ自動車株も上昇が目立った。中国当局が自動車の輸出支援を含む貿易の安定策を発表したことが好感された。同じく当局による支援の可能性が伝わった電力関連も買われた。このほか、好決算だった香港取引所、不動産、公益、空運株も上昇した。

半面、中国ゲームの網易（ネットイース）が下落。中国移動など通信の一部、パソコン、半導体の一角が軟調。海運株も売られた。

香港の運用会社、大唐資本のローザ・リー最高投資責任者（CIO）は26日の相場について「テクニカルな上昇」と指摘する。「市場は様子見の態度だ。米国の景気後退の可能性などをにらみ、積極的な売買を控えている」とみている。

香港上場のハイテク関連銘柄で構成する「ハンセンテック指数」は1.25%高だった。

香港メインボードの売買代金は978億香港ドルだった。中国本土との相互取引で、本土投資家による香港株の売買は買い越しだった。